

先天性心疾患を主体とする小児期発症の心血管難治性疾患の救命率の向上と
生涯にわたるQOL改善のための総合的研究
(分担) 研究報告書

研究分担者 坂本喜三郎 静岡県立こども病院長

研究目的 先天性心疾患患者の生涯にわたるQOLの向上を目指し、新生児期から成人まで幅広い視野を持った研究を行う。

A. 研究目的

- ①新生児期・乳児期早期から介入を必要とする房室弁・半月弁に対する外科的介入の有用性を検討する。
- ②成人期に達した患者の移行に関し、必要な条件や自立支援などをスムーズに行うための研究を行う。

B. 研究方法

- ①後方視的に大動脈弁・房室弁への介入症例を検討し、手術手技の検討を行う。
- ②成人先天性心疾患患者のレジストリー作成を目的とし、まず県単位での作成が可能かどうか検討する。

(倫理面への配慮)

- ① 後方視的研究で非介入研究である
- ② まずは個人情報の段階に至るまでに、医療施設側のデータを採取する

C. 研究結果

- ①大動脈弁や特に左心低形成症候群や無脾症候群のような死亡率の高い患者群に対する房室弁形成、とくにinterannular-bridgingの有用性、可能性について検討することができた。
- ②小児施設側からどの疾患をどの成人施設に送ったかのデータを採取できた

D. 考察

- ①さらなる長期成績を追うことが必要と考

えられた。

- ②受ける側成人施設への調査を継続して行うことが必要。

E. 結論

- ①新生児期・乳児期の房室弁・半月弁に対するinter-annular bridgingは有用である。
- ②ACHD患者レジストリー作成の重要性が再認識させられた。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Maeda T, Hiroki Ito, Keiichi Hirose, Kisaburo Sakamoto. Bicuspidization Using the Open-sleeve Technique for Congenital Aortic Stenosis During Infancy” Congenital Heart Disease. Tech Science Press In pressほか

2. 学会発表

小児大動脈弁疾患に対する大動脈全弁尖置換術：体格による比較検討 静岡県立こども病院心臓血管外科 前田 登史ほか. 第54回日本心臓血管外科学会 ほか

H. 知的財産権の出願・登録状況

- 1. 特許取得 特になし
- 2. 実用新案登録 特になし